哩を隔つるにすぎざる魚釣島小島の生住禽類は、本島と差異あるを見る。予は親しく魚釣其他の島嶼を蹈査する能はざりしも、黑岩氏等の視察によりて、略各島に於ける鳥類棲息の狀を知るを得たり。「アホウトリ」「クロアシアホウトリ」「ヲサトリ」等は各島に共通なれども島によりて其多少を異にす。例せば魚釣島には「アホウトリ」多からずして反て「クロアシアホウトリ」の多數なる、又「ヲサドリ」の小島、黃尾嶼に多くして魚釣島に少き等の如し。又黃尾島に多き「ミヅナギドリ」「クロウミツバメ」は魚釣島及び小島に棲息せず。反て本島には其影だにも見ざる「セグロアヂサシ」（Sterna fuliginosa, Gm.）及「クロアヂサシ」（Anous stolidus, Gr.）等の無量數百萬の群棲するが如きは最著しき點なりとす。殊に「アヂサシ」が「ヲサトリ」と共に黃尾嶼の東方四十八海里にある赤尾嶼上にも生息するは海鳥の生態上面白き點なしとせんや。かく相近き島にして棲息する鳥の種類に差異あり、相離れたる島にても相同しき等の現象は、如何なる關係によりて來るや。勿論鳥の棲息地たる島上の狀態も其因の一なる可しと雖も、其食物は此般の異同を支配するに最力あるにあらざるなきか。海禽の種類異るによりて、其食物に差あるは有勝のことにて、且つ其食物は、海產物なれば、海禽棲息の異同を以て又其附近の海產物を察知することを得ん。現に小笠原島の中「アホウトリ」の棲育するは鳥島乃ち三子島にして、其附近には二三の小島ありて、其島上の狀態等は相異らざれども、一も「アホウトリ」の棲息するを見ずと云ふ。然るに反て遠く離れし尖閣列島中の本島に同種のもの多し。是れ信天翁の食物となる可き海產動物の相同しきにはあらざるか。未だ兩處の動物界の概況をだに知らざれば、明ならざれども海中の動物中にても、「カキ」の如きは同種にして、又「クダサンゴ」の如きは兩處に棲息す。かく記するも海禽の繁育は溫度の關係に因るは勿論なり只其相接せる島に於て、棲息者の著しく異るは鳥の食物となる可き生物の彼我相異るに歸することならんとの考を述ぶるのみ

結　尾

海禽の用途一にして足らず。其肉と骨とは占粕として肥料に供す可く、油は以て工業上に使用するに足る。然れとも最貴重なるは、鳥の羽毛にありとす。羽毛を種々の用に供するとは、本邦にありては未だ盛ならずと雖も、歐米各國に於ては、裝飾品に供し、或は臥床等に用ゐ年々羽毛を輸入すること巨額なり、而して本邦のみより海外に毎年輸出する鳥羽の額又決して少からず。外務省輸出入統計表に就て見るに、明治廿四年以降昨年度に至る鳥羽輸出斤高及其價格は次の如し。

年	斤	圓
廿四年	三二七、三八七	四五、五六一、七六
廿五年	三〇七、七〇六	四六、五四八、二四
廿六年	三四〇、五五〇	六六、〇九八、一〇
廿七年	三六七、九一九	七六、〇八六、八一